

国境を越える絆を育む『JALスカラシッププログラム』

Ceremony



プログラムの終盤、修了式に集った2025年の参加学生たち。

豊かな地球と
国際平和を次世代へ

1990年発足のJAL財団は、豊かな地球を次世代に引き継ぐため、「未来」「平和」「社会」への貢献をテーマに、さまざまな事業を展開しています。

活動の基盤となるのは、子ども・青少年の育成、国際親善・文化交流、環境保護への支援です。具体的には、将来のアジア・オセアニア地域で活躍できる若者を育成する「JALスカラシッププログラム」、俳句を通じて感性を養い日本と世界の子どものための交流を図る「世界子どもハイコロンテスト」、世界の第一線で活躍する講師を迎える「地球人講座」、航空機による大気観測で地球温暖化のメカニズム解明に寄与する

『CONTRAILプロジェクト』などです。これらの活動を通じて、バックグラウンドの異なる人々が互いに理解し協力しあえる国際社会の実現と、航空と環境の共存を目指しています。

地球規模で考え・動く
若者を育む

中でも、次世代をけん引するにふさわしい「地球人」の育成のため、半世紀にわたり継続してきた事業が「JALスカラシッププログラム」です。このプログラムは、アジア・オセアニアの学生を日本へ招待し、日本人学生との交流・研修や文化体験を通じて日本を知ってもらい、国境を越えた相互の理解を促進し、友情や絆を育むことを目的としています。

今回のテーマに該当する目標



福岡県宗像市大島でのビーチクリーン体験。



グループワークや視察プログラムの中にはJAL格納庫見学も。

創設したプログラムを、後にJAL財団が運営を引き継ぎ、時代のニーズを反映しながら内容の充実を図ってきました。現在はオンライン研修も取り入れ、日本での対面プログラムとのハイブリッド形式で開催しています。例えば2025年は、「SDGs」を「持続可能な未来へ」をテーマに、対面プログラムは福岡と東京で実施。講演やフィールドワークを通じて主に環境問題について学びを深め、グループごとのアクションプランと「わたしの2030年目標」を作成しました。21の国や地域から集まった25人のスカラシップ生は、日本人学生と2週間寝食を共にし語りあうことで、血の通った国際交流の手応えを得たことでしょう。

JALスカラシッププログラムがこれまでに海外から迎えた学生は1700名を超え、卒業生は閣僚、外交官、財界人、学者、ジャーナリストなどとして世界

Reunion 卒業生が50周年の節目にJALを訪問!



2025年8月18日、1983～85年のプログラムに参加した23名の卒業生が世界各地から日本に集い、同窓会が実現。JALグループCEOの鳥取三津子と執行役員の小川宣子を訪問しました。

各地で活躍し、日本との絆を深める架け橋となっています。また、各地では同窓会が開催され、国や地域、世代を超えた卒業生同士の交流が今なお続いています。こうした一つ一つのつながりが平和への礎となることを信じて、JALグループとJAL財団はこれからも国際交流の一翼を担ってまいります。



2015年9月、全国連加盟国(193カ国)により「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が採択されました。2030年までに、貧困や気候変動、平和的社会などの17の目標を達成すべく、JALグループも社会の課題解決に取り組んでいきます。

2026年
JALスカラシップ
プログラム
日本人学生・大学院生を
募集します

日程

- ① 2026年
6月25日(木)～7月1日(水)
オンラインプログラム
- ② 2026年
7月2日(木)～7月16日(木)
対面プログラム

募集人数

7名(予定)

応募締切

2026年4月10日(金)17時まで

応募先

参加募集要項や過去のJALスカラシッププログラム活動紹介については、右記二次元コードからJAL財団Webサイトをご覧ください。

